

Newsletter 26

慶應義塾大学教養研究センターニュースレター第26号 / 2015年5月15日発行

Contents

巻頭言	寄り道のすすめ
特集I	【公開する学び】「HAPP」「日吉キャンパス公開講座」
特集II	「3年目を迎えた学びの連携」
特集III	【授業という名の冒険——教養研究センター設置科目——】 身体知・音楽／生命の教養／身体知・映像／アカデミック・スキルズ／
特集IV	学習相談
特集V	【研究サポート】「学会・ワークショップ」「研究の現場から」
活動予定	4月～9月、教養研究センター選書原稿募集
私の〇〇自慢	



寄り道のすすめ

教養研究センター副所長
工藤多香子（経済学部）
Takako Kudo

昨年10月から教養研究センターの副所長を務めています。以前から所員ではありましたが、これまでほとんどセンターの活動とは無縁でした。不破前所長のお手製キッシュに誘われて、ときどき「研究の現場から」に顔を出していた程度です。もちろん来往舎界限でさまざまなイベントが開催されていることは知っていました。知っていたというよりも漠然と気づいていたと言うべきでしょうか。授業直前にキャンパスにやってきて、チャイムと同時に教室へと足早に向かい、授業が終われば一刻も早く一息つきたいと研究室に駆け込む。こんな日々を送っていると、来往舎の入口付近にイベント告知のポスターが並んでいても、「どこかの誰かが今日がんばっている」ぐらいにししか気に留めていませんでした。それらのイベントの多くに教養研究センターが関わっていたことも、副所長になってようやく認識したほどです。身近に起きていることにここまで鈍感なのは私ぐらいかもしれません。しかし、授業と研究に加えて日々膨れ上がる業務や会議に追われていると、直接自分に関わらない情報をつい無意識に遮断してしまうということは、程度の差こそあれだれにでも起きているのではないのでしょうか。

副所長に就任してからは、当然、関連イベントに顔を出す機会が増えました。教職員が参加できるイベントも少なくありません。これまで「学びの連携」「教員サポートワークショップ」「研究の現場から」などに参加しましたが、他キャンパスの実験的授業を体験したり、授業の中で生じる悩みを共有したり、同僚の研究にときめいたり、どれも有意義なものばかりです。何よりも、未知のを知ることは、年をとってもわくわくする経験なのだとすることに改めて気づきました。このように学びのチャンスがごろごろと転がっているのは大学という職場ならではのものです。それなのに今までこのチャンスを素通りしてきたということは、学ぶことへの貪欲さがどこかで失われていたのだとも思い知らされました。

今の世は、他人より1点でも秀で、1円でも多く得るのが良しとされる競争社会。大学もこの競争イデオロギーに巻き込まれています。でも、そもそも豊かな知識や洞察力は目先の競争にとらわれてばかりでは身につかないはずです。今の自分には一見無縁なことがらにも寄り道する余裕と勇気が必要でしょう。学生に教養の大切さを教えるべき側が、忙しさにかまけて寄り道する余裕を失ってはいけないと、いまさらながら自分に言い聞かせています。

教養研究センターでは2015年度も「日吉学」「庄内セミナー」「情報の教養学」などなど、寄り道に最適なイベントをたくさん用意しています。学生はもちろん、教職員のみなさんも思い切って寄り道してみませんか。

公開する学び～HAPP・公開講座～

秋学期の HAPP の活動

2014 年度秋学期において慶應義塾大学教養研究センター日吉行事企画委員会（以下 HAPP）は、春学期中に公募、採択を決定した企画の実行を核として活動を行ってきています。2014 年度採択された公募企画は、オリジナルの台本を用いた、学生による演劇の企画が 1 件、ピアノ 2 台を用いた、誰にでも気軽に聴ける内容を持つ演奏会の職員企画が 1 件、合計 2 件でした。それぞれの企画には異なった趣向が見られ、たくさんの来場者がありました。その中には多くの地域住民の方もおり、HAPP の公募企画は、日吉キャンパスを開かれた大学にしていこうということに確実に貢献していることが確認できました。

詳細は、HAPP のホームページ（<http://happ.hc.keio.ac.jp/>）で見ることができます。

（石井明）

日吉キャンパス公開講座「言葉と想像の翼」を終えて

2014 年度日吉キャンパス公開講座は「言葉と想像の翼」というテーマで、10 月 4 日から 12 月 6 日までの 8 週、計 16 名の講師が講義を行いました。学生から既に引退されたシニアまで幅広い受講者が集まり、毎回会場は熱気で溢れていました。各講師に設けていただいた質疑応答のコーナーでは、フロアから内容の濃い質問が次々に出て、大学講義ならではの知的刺激が満喫されたと思います。

哲学、文学、映画、演劇、手話、身体、動物、脳等といったさまざまな専門領域から「言葉」と「想像力」という現代の問題に切り込むこの講座では、一見まったく異なる視点や方法や素材から、聴講者がそれらに共通する問題を見出し、新たな視野を得る思考力、想像力が要求されました。

日常使っている「言葉」、毎日働かせている「想像力」を改めて取り上げると、普段は意識していなかった自分の生き方や振る舞いが別の角度から見えてきます。コミュニケーションのツールという狭い枠から解放し、それらの可能性を探る意義がそこにあります。

概して高度な内容となった本講座は、普段は大学と縁のない一般の参加者には、貴重な機会として好意的に受け止めていただけたようです。学問と好奇心に垣根はありません。大学が社会に出て行くこと、社会から大学に戻ること、それらを架け橋する役割をこの公開講座が担っていけたらと希望しています。

（納富信留）



公開講座初回
講師の納富先生



公開講座 11 月 29 日のグループワークの様様



HAPP職員企画
「8Hands' Piano Performance」

【HAPP】2015 年度スケジュール

新入生歓迎行事

「大学体育施設紹介と体力測定&プール開放」

4 月 7 日（火）～ 13 日（月）10:45～14:30（土日除く）

日吉陸上競技場・協生館体育施設

新入生歓迎行事

大野慶人舞踏公演「花と鳥～内部と外部」

4 月 24 日（金）18:15～19:15（開場 17:45）

来往舎イベントテラス

新入生歓迎講演会 〈物語の世界〉「『ガリヴァー旅行記』の楽しみ方——文学、絵画、映画、そして人間理解」

4 月 28 日（火）18:15～19:45 来往舎シンポジウムスペース

講師：原田範行（東京女子大学教授）

新入生歓迎講演会 〈ことばの世界〉

「軽蔑的即席造語の二つの型」

5 月 8 日（金）15:00～16:30（開場 14:30）

来往舎 2F 大会議室

講師：岩崎英二郎（慶應義塾大学名誉教授）

新入生歓迎行事

2015 年度「塾長と日吉の森を歩こう」

5 月 9 日（土）13:30 集合 まむし谷散策

新入生歓迎行事

ゲキ×シネの世界 〈罇城の七人〉

5 月 19 日（火）17:00～20:45（開場 16:30）

協生館藤原洋記念ホール

日吉音楽祭 2015

7 月 5 日（日）、9 月 26 日（土）協生館藤原洋記念ホール

3年目を迎えた学びの連携

2014年度の「学びの連携」は様々な拡がりを見せました。「本の世界への探索法ワークショップ」では古い書物を素材に、情報을載せるモノの姿に着目して、知を作り・運び・味わった人々の生を追体験する新たな学びの世界を知りました。「交渉力体験ワークショップ ハーバード×慶應流交渉学」では、ケース・メソッドによる学びの新たな分野を体験しました。「創造を促す対話のための言語『パターン・ランゲージ』の体験ワークショップ」では、主体的な学びを生み出す新たな教育メソッドを学びました。社会人と学生とがともに学び合うスタイルが確立したのも大きな成果です。こうした成果を継続発展させ、そこで学んだメソッドの日吉の教育への応用に挑戦するのが、「学びの連携」の今後の課題です。

(種村和史)

問題解決力向上のため交渉学を学ぼう

学びの連携では、交渉学入門のセッションを行いました。多くの人にとって交渉学という言葉はあまりなじみがなかったと思います。そこで、交渉学とは何かについて理解を深める講義を行い、実際に模擬交渉を体験することを通じて、問題解決のための交渉のロジックを身につけていただくことを試みました。

ところで、世の中では交渉術という言葉が一般的です。しかし交渉術では駆け引きが中心となり、どちらかが勝ちどちらかが負けるという win lose 交渉になりがちです。交渉学では、その考え方を根本的に変えて、交渉によって当事者が創造的に目の前の問題を解決するスタンスで対話することを目指しています。交渉を通じて相手方が問題をクリエイティブに解決するという win win の交渉に持っていくことが目標です。

模擬交渉を中心とする交渉学の教育手法それ自体も興味深い試みです。世の中には正解のない問題が非常に多く、人々を悩ませているのに、教育現場では正解を求める教育が中心に行われてきました。人が実力をつけて、問題解決をする能力を養うためには、交渉学のようなアクティブ・ラーニングが教育の現場でもっと必要となるでしょう。

今回のセッションでは、交渉学のアクティブ・ラーニングを通じて、講義の内容の理解が深まったかと思います。今後もより多くの方々が、この交渉学にふれ、一段高いステージで問題解決に取り組むことができるようになればと思っています。

(田村次朗)

学びのパターン・ランゲージを用いた対話ワークショップ

本ワークショップでは、創造的な学びの秘訣をまとめた「ラーニング・パターン」を用いて、経験談を話し合う対話のワークショップを行いました。ラーニング・パターンは40個のパターンで構成されており、そのひとつひとつのパターンには、学びの状況において、どのような問題が生じやすく、それをどう解決すればよいのかの秘訣が書かれています。

対話ワークショップでは、参加者はラーニング・パターンを用いて自分のこれまでの「学び」の経験について語り、また他の人の経験を聞いていきます。ここでは「学び」を広い意味で捉え、いわゆる勉強のことだけではなく、スポーツや音楽、趣味や社会活動などにおけるスキルアップや知識獲得も含まれます。ワークショップでは、まず準備として、ラーニング・パターンのなかから自分が経験したことがあるものをリストアップし、そして、未経験のパターンの中から「これから取り入れたいパターン」をいくつか選んでもらいます。

そしてワークショップ中は、会場にいる他の参加者にランダムに話しかけ、自分が取り入れたいパターンを経験している人を探し、見つけたらその人の経験談を聞きます。逆に、相手を取り入れたいパターンを自分が経験している場合には、その経験談を語ります。そして、話し終えたら次の話す相手を探すというワークを、時間が許す限り、繰り返し行っていきます。

今回も、あちこちでいきいきとした対話が繰り広げられ、かなり盛り上がるワークショップとなりました。ぜひ今後に活かしていただければと思います。

(井庭崇)





教養研究センターには
必要な考え・調べ・書く
ていきます。そして、身
ます。「授業」という型

「アカデミック・スキルズ」

論文執筆。まず大切な
なりに発見した気にはなり
か、論点が多すぎるか。
を発揮し、試行錯誤しな
ります。その壁を抜けたと
的で先行研究が膨大だと
創的でも調べようがなく
さんのアクセスできる範囲
はやはり物事を突き詰めた
教員で指導できることもあ
になる。そのことを痛感し

向上心を忘れず

この度は金賞という身
大変嬉しく思っています。
の私自身の率直な感想
自らの主張を明確に伝え
に難しいということです。
性が足りないということも
んじることなく、今後の自
験を生かしていきます。
での一年間では、主体
く姿勢・現状に満足する
の見方することの重要性
生活の中でも常に「なぜ
何事にも向上心を持って

「身体知・音楽」授業を終えて

身体知・音楽の2クラスが正規授業となって3年となります。継続履修の学生も多く、年々レベルアップしていています。一昨年度2013年度はオペラ上演という大がかりな企画をやりましたが、2014年度は個々の学生の基礎技術の向上に重点を置いた授業を展開しました。それでも、合唱クラスと器楽クラスの選抜メンバーとで、一流のソリストたちを招いて、ドイツ・バロックの大家ブクステフデの大曲を、日吉と阿佐ヶ谷教会で2回公演をし、多くのお客様に来ていただきました。プロの演奏家の音のニュアンス作りを聴いて、それを自らの声や楽器の音に反映させていくという作業は、とても大変なことでしたが、それによって少しずつそれぞれの中にある音楽表現の幅が広がってきたように思えます。これは未来の音楽文化を支える学生たちの一生の宝となったはずです。(佐藤望)

「生命の教養学」ついに性を扱う

2014年度は「性」をテーマに据えました。多様な研究分野を代表するかたたちにご登壇いただきました。以下、お名前を挙げます(敬称略、肩書きは当時)。斎藤環(筑波大学医学医療系教授)、松本緑(理工学部准教授)、長谷川由利子(元・商学部准教授)、梅川純代(日本大学非常勤講師)、石井達朗(名誉教授)、小堀善友(獨協医科大学講師)、佐々木玲子(体育研究所教授)、鈴木透(法学部教授)、岡真理(京都大学大学院人間・環境学研究科教授)、大申尚代(文学部教授)、長沖暁子(経済学部准教授)。いずれ劣らぬ啓発的なお話は遠からず講義録にまとめられるので、刊行後にぜひお読みください。なお、私は2014年度で本講座企画委員長の座を下ります。本当に楽しい仕事でした。ご協力くださった皆さまにこの場を借りてあらためてお礼申し上げます。

(高桑和巳)

2014年度「身体知・映像」後期——初のSFに挑戦

「身体知・映像」の授業では、後期は文学作品の映像化に挑戦しています。2014年度はこのクラス開設以来、初めてのSF作品、アイザック・アシモフの『われはロボット(I, Robot)』(1950年)のなかの一つの物語「うそつき(Liar!)」を取り上げました。ロボットの話でありながら、身近に起こるような人間心理を扱ったこの物語。視点も誰に据えるのかによってさまざまな物語が浮上します。しかも、ロボットの社会的役割について真剣に話されるようになっていく昨今だからこそ、非常に現実的なテーマでもあります。今回も物語の読み解きとシナリオ作成に関しては「劇団サンプル」主宰の劇作家・演出家の松井周さん、映像による物語の作り方には映像作家の小泉明郎さんを特別講師に迎え、最高の学習環境で制作に取り組むことができました。成果発表は2月5日の「アカデミック・スキルズ・プレゼンテーション・コンペティション」においてダイジェスト版を発表したのみならず、4月4日には今回制作した2本の作品発表会を開催しました。この夏には過去から2015年までに制作された作品の発表会を開催する予定です。その際は皆さま、お誘い合わせのうえいらしてください。(横山千晶)





(工藤多香子)

(片山杜秀)

(大出敦)

(経済学部 2 年 パクミンウ)

学習相談

教養研究センターと日吉メディアセンターでは「学び場プロジェクト」の一環として、「塾生による塾生のための半学半教の場作り」を行っています。アカスキを履修した学部生と大学院生がピア・メンターと呼ばれる相談員となって、日吉メディアセンターで学生のレポート作成の悩みなどの相談を受けています。

経験を仲間と共有する活動

後期は2年生の入ゼミ課題に関する相談を多く受け付けました。自分自身が入ゼミや大学院入試をどう乗り越えたかを話すことで、単にレポートとして課題をこなすのではなく、どのように教員や先輩に研究関心を伝えるかという面を一緒に考えられたと思います。また前期に引き続きピア・メンターによる講座を行いました。レポート入門となる講座に加え、論文の「読み」に注目した講座、そして Prezi を使ったプレゼンテーションの講座と、発展的な内容も用意しました。それぞれメンターが自ら得た「どうしたら伝わる・書けるのか」を共有する場になったと思います。後期を通し、学生生活を経て得た経験を伝えたい、という思いが学習相談の根底にあると改めて感じました。今後も、学生が大学の仲間へ残したいものを伝えていく、そんな活動でありたいと思います。

(日吉ピア・メンター 田中瑠衣)

より広く認知される存在へ

学習相談を受けていると、以前に利用していいヒントが得られたので、今回も相談に来たという話を利用者から聞く事があります。はじめに学部学年、相談内容と利用回数について簡単なアンケートをとり、活動状況の記録と分析に用いるのですが、その結果を見てリピーターが多いことに気がつきます。広報としては、学習相談を利用したことのない学生に、存在を知ってもらうことが課題です。図書館掲示板だけではなく、2014年度は日吉学生部の協力を得て、学部掲示板にもポスターを掲示しました。日吉生協食堂のプラズマディスプレイでも、学習相談の広告を放映しています。企画や相談員に関する情報発信には、Twitter を活用しています。多くの学生に、学習相談を気軽に利用してもらえるよう、今後も広報を工夫していきたいです。

(日吉ピア・メンター 池田絢音)

進路戦略と大学での学びの意味

今回の3キャンパス合同トークセッションには、特に日吉に通う1、2年生に、キャリアパスの観点から大学での学びを再考してほしいという意図がありました。この観点からセッションを振り返ると、最後に出た可能性を広げる方略を取るか、専門を深める方略を取るかという論点は、この問題を考えるうえで重要な論点となるのではないのでしょうか。

大学での学びは、自分の将来を考えたいことでこれを位置づけることができるかという点が、その意味を考えるうえで重要な核となってくると思います。その際にこの論点に対してどういう考えを持ち、それに基づいて大学での学びをどう位置付けるか、先輩たちの体験を基に考えてもらえうきっかけになってもらえれば幸いです。

(日吉ピア・メンター 原圭寛)

トークセッションでの半学半教—湘南藤沢キャンパスより

2014年12月10日に日吉キャンパスで日吉、矢上、湘南藤沢3キャンパス合同のトークセッションが行われ、SFCからは私を含め2名の博士課程の学生が参加しました。私はSFCのライティング&リサーチコンサルタントを始めてまだ少ししか経っていませんが、このようなセッションに登壇する機会をいただき感謝しています。他の登壇者の方たちも多様なキャリアパスを持っておられ、それを来場者各々の今後の生き方選択に役立ててもらえると嬉しいです。来場者からの質問で私が考えさせられ学ぶことも多く、セッションでの相談内容も含めこれからのコンサルタント業務に生かしていけるものと思います。普段他キャンパスの学生と話す機会はなかなかないので、準備期間も含めとても有意義な時間を過ごすことができました。ありがとうございました。

(SFCライティング&リサーチコンサルタント(WRC) 伊藤綾香)

矢上キャンパスの視点からの感想

自分の学生生活を踏まえて、後輩に意味あるアドバイスを残したいという思いから、進路選択について話をさせていただきました。私は普段S-Circleで理工学生向けの相談員として活動していますが、就職や進路選択にあたり、「自分のやりたいことが分らない」という悩みを持つ方は意外と多いです。世間ではやりたいことをとことん追求することが素晴らしいという風潮がありますが、悩み、立ち止ってしまう人に対しては、消去法で進路を決めるというアプローチが有用ではないかと考えています。大切なことは、自分で選択した進路を充実させていくことではないのでしょうか。

他のキャンパスの登壇者からもそれぞれの経験を活かした興味深い話を聞くことができました。他の学部と違い、理工学部生は他学部との交流が希薄になりがちなので、こうして他キャンパスと交流する機会は今後も増えていくと良いと思います。

(矢上S-Circle 黒川祥悟)



日吉、矢上、湘南藤沢の学習相談員によるトークセッション「慶大生よ、何処へ行く? —先輩からきく進路戦略—」の模様(2014年12月10日 於:日吉メディアセンター)

研究サポート「学会・ワークショップ」・「研究の現場から」

〈学会・ワークショップ〉

日本スイス国交樹立 150 周年記念国際シンポジウム「フランス語圏スイス再考」

様々な分野において、実は世界をリードしている「小さな大国」スイス。その中でも西部の仏語圏を分析対象とする本邦初の国際シンポジウムを、2014 年 10 月 11 日、来往舎シンポジウムスペースにて開催させて頂きました。代表的な事項や人物を、最新の研究成果と共にわかりやすく紹介していくというスタイルで、日本語と仏語による 12 の発表が行われました。海外からの報告者は 3 名、その他、独語圏を専門とする 3 名にセクションの司会、スイス研究の第一人者、日本女子大学の森田安一氏に全体討論の進行を担当して頂き、多様な視点からの議論が目指されました。

開会時にご挨拶頂いた清家塾長やブーヘル駐日大使をはじめ、当日は多くの方にご来場頂きました。新たな発見や出会いによりさらなる関心が芽生え、相互理解も深まることにより、より活発な交流や影響関係が生まれ、共同研究や交換留学制度の樹立等も行われていくことを願っています。

(小林拓也)

〈第 12 回「研究の現場から」〉

私の研究紹介：ルソー、スイス、フランス語教育

研究上の「3 本の矢」についてお話しさせて頂きました。まず「フランス語教育」ですが、効率的な学習メソッドの確立がその目標となっています。『最強の使える動詞 59』等の参考書が、現時点での成果です。次に「スイス」に関しては、留学先であったヌーシャテル州の歴史と文化が興味を中心です。昨年 10 月には教養研究センターご支援のもと、国際シンポジウムをオーガナイズさせて頂きました。最後に「ルソー」については、その植物学者としての側面の再評価を行っています。生誕 300 年を記念して 2012 年にスイスで刊行された新全集では、第 11 巻 434 ページを使って、研究史上はじめて全ての関連テキストを提示させて頂きました。(小林拓也)

【予告】

第 13 回「研究の現場から」——研究と人の交差点——

4 年前から始まった「研究の現場から」も回をかさね、来往舎内の研究交流活動として定着してきました。日吉キャンパスの教員たちが、仕事ぬきで楽しく集まる機会というのはなかなかありません。「研究の現場から」では、毎回おいしい食べ物と飲み物を用意して、リラックスした雰囲気の中で同僚の研究の話に耳を傾けています。和やかさのなかにも、最前線の研究の話に感嘆したり、思わぬ新しい発見があったりと、刺激に満ちたサロンです。予約は不要です。どなたでも大歓迎ですので、どうぞお立ち寄りください。

(工藤多香子)

2015 年 6 月 17 日 (火) 18:15 ~ 来往舎 101 にて

・赤江雄一 (文学部)

「学問知と民衆への伝達——中世後期ヨーロッパの説教」

・池田真弓 (理工学部)

「『健康の庭』——15 世紀印刷本草の挿絵からみえること」

〈第 12 回「研究の現場から」〉

ダンテ『神曲』の数的構成について

9 名の先生方をお迎えし、7 時半頃より『神曲』を書く前にダンテがいかに念入りに設計図を作り、それに従って、数的な比や調和、対称性を駆使して数的象徴の大伽藍を創り上げているかを多数の例を交えてご説明したところ、諸先生方から～半ば讃嘆されながら、あるいは半ば呆れられたかのような～驚きの声が上がっていました。これに気をよくした私は、時間の超過も忘れ、さらに新たなテーマ「『神曲』における幾何学的構成」についても触れ、『神曲』がいかに π に基づき、幾何学的にも緻密に構成されているかを説明しました。『神曲』のテキストの下に幾何学図形が隠されていることに、皆様は驚きを越えて、狐につつまれたような感覚を味わわれたようでした。(藤谷道夫)

学会・ワークショップ開催支援

当センター所員が企画する研究会やワークショップ等を応援し、広く所員の方々が参加できるような研究・交流の場を広げたいという趣旨で、開催に伴う経費の助成や日吉キャンパス内等の広報の支援いたします。毎年 2 回の募集期間を設けて募集しています。

受付期間は、春学期開催分は 1 月末日まで、秋学期開催分は 7 月末日までとなっております。また経費を必要としない「後援・共催」については随時受付けています。

実験授業の支援

本事業は「学生が自ら問題を発見し解決する」という教養研究センターの教育目標に沿った既存の枠組みにとらわれない、創造的発想・論理的思考・総合的な言語力の涵養を図る実験授業を一般公開して、メソッド開発を試みる所員を支援・奨励する制度です。受付は、10 月 31 日 (金) までとなっております。奮ってご応募ください。

求ム・来往最前線情報！

所員の方々の研究・教育のご紹介をします。勉強会、研究会、講演会、ワークショップのお知らせ (日時・内容・研究会名・担当教員・連絡先)、著作刊行物がありましたら、情報をお寄せ下さい。教養研究センターへ: toiwase-lib@adst.keio.ac.jp

2014 年度極東証券寄附講座「身体知・映像クラス」
『映像作品発表会』アイザック・アシモフ原作
『うそつき!』(『われはロボット』より)

4月4日(土) 開演 14:30 来往舎シンポジウムスペース

【新入生歓迎トークセッション】
「後悔しない日吉ライフ～大学で学ぶということ～」

4月16日(木) 16:30～18:00 日吉図書館1階ラウンジ

【日吉学】第1回
「日吉の森で生物多様性デジタルマップを作ろう」

4月26日(土) 13:30～17:00 第4校舎B棟22番教室
 キャンパス内の日吉の森を散策して、出会った動植物を地図に
 プロットし、誰でも検索できるデジタルマップを作ります。

【HAPP】 5月8日(金) 15:00～16:30 →特集I

【HAPP】 5月9日(土) 14:00 →特集I

【日吉学】第2回
「歩いて、見て、考える、日吉の戦争遺跡」

5月23日(土) 13:30～17:00 第4校舎B棟22番教室
 戦後70年の節目の年、日吉の戦争遺跡に触れつつ、
 アジア太平洋戦争をDeepに考えてみてはいかがでしょうか。

第13回【研究の現場から】

6月17日(火) 18:15～ 来往舎101 →特集V

赤江雄一(文学部)

「学問知と民衆への伝達——中世後期ヨーロッパの説教」

池田真弓(理工学部)

「『健康の庭』——15世紀印刷本草の挿絵からみえること」

【教養研究センター選書原稿募集】

事前申込み締切:7月31日(金) 原稿提出締切:9月30日(水)

教養研究センター選書原稿募集

当センター所員が、その学術研究の成果の一端を、学
 生を中心とする一般読者にいち早く発信して新鮮な知の一
 石を投げ、研究・教育相互の活性化を目指そうとするもので
 す。これまで14冊刊行されています。奮ってご応募ください。

私の^{マル}溜^メめ^{マル}込み^ミ自慢

昨年6月、教養研究センターの事務局に異動になりました。実は5年半振りの出戻りです。どうぞ宜しくお願いいたします。
 最近、祖母の代から住んでいた築75年の家を取り壊し、新しい家へと住み替えしました。そこそこが隙間風のため冬は何枚も重ね着をして過
 ごすような家でしたが、昭和レトロな雰囲気と天井が高いのを気に入り、直しなおし住んでいたのですが、大型地震に耐久性ゼロの診断を下され、
 止む無く取り壊すことを決意しました。

ところが、いざ壊すとなると、心配していた通り、荷物が出てくるわ、出てくるわ。古い家は押し入れの数だって多いし深い。そもそも我が家は
 代々捨てるのが苦手な家系らしい。着用に帯、父の荷物は本棚にして20近くの様々なジャンルの本に、記念切手やはがき、タバコやマッチの
 パッケージから、果てはお弁当の包みまで手付かずで箱から溢れそうな始末です。かく言う私も多分に漏れず、溜め込み派。児童図書に始ま
 る本の類に、ティーカップなどの陶磁器類等々。未だにどこに行っても、つついパンフレットには手が出てしまいます。よく言えば、好奇心が旺盛。
 ということで、今は未整理の荷物と共に暮らし、片付けは退職後の一大作業になりそうです。

日吉キャンパスには、私などほんの足元にも及ばないような溜め込み自慢が数多くいらっしゃいますね。

(吉川智江)

4
月

カドベヤで過ごす火曜日

毎週火曜日 レンタルスペース「かどべや」(横浜市中区石川町)
 「足湯カフェ」17:30～19:00
 「ストレッチとためし」19:00～21:00

【HAPP】→特集I

4月7日(火)～13日(月) 10:45～14:30(土日除く)

【情報の教養学】第1回:岸井成格
「歴史の転換期と報道の使命」

4月17日(金) 16:30～18:00 来往舎シンポジウムスペース

【HAPP】 4月24日(金) 18:15～19:15 →特集I

【HAPP】 4月28日(火) 18:15～19:45 →特集I

【情報の教養学】第2回:牛場潤一
「脳を知り、脳を治す」

5月13日(水) 16:30～18:00 来往舎シンポジウムスペース

【HAPP】 5月19日(火) 17:00～20:45 →特集I

【日吉学】第3回
「日吉は地図と地上観察で遊ぶとこんなに面白い!」

6月6日(土) 13:30～17:00 第4校舎B棟22番教室
 日吉の高低差・崖地形や歴史的な街の変化などを地図から俯瞰し、
 フィールドワークでその痕跡を見つけます。

【情報の教養学】第3回:新保一成
「貧困を測る」

6月17日(水) 16:30～18:00 来往舎シンポジウムスペース

【HAPP】 7月5日(日)、9月26日(土) →特集I

【2015 年度「庄内セミナー」】

8月28日(金)～31日(月)
 山形県鶴岡市(鶴岡タウンキャンパス他)

*各イベントへのお問い合わせは、toiawase-lib@adst.keio.ac.jpまで

5
月

6
月

7
月

8
月

9
月